

工場見学（群馬県）



省エネ基準の改正で需要が増加中

兼希工業 株式会社 性能向上、工期も大幅に短縮 軸組工法パネル工場生産増加

兼希工業(株) 細瀨敦 専務取締役
(気密測定技術者)

省エネ基準改正の影響で、断熱材とボードと一体化させたパネル製造工場の生産が好調である。本誌では、木造軸組工法専用のパネル製造を行う兼希工業（群馬県伊勢崎市）取材した。

同社の細瀨専務によると、在来工法向けパネルの賃加工の専業事業者が少ないということもあり、また省エネ法の改正によって躯体の高性能化を図る動きも顕著となり、一昨年からパネル製造の引き合いが増加し続けているという。

創業 65 年になる同社は、もともと

と石油コンロや米櫃の製造から始まり、高度成長期以降は主にアルミの鋳造分野でショーケースや信号機、駐車場などのカバー部材の製造を手がけてきた。パネル事業を始めるきっかけとなったのは今から 14 年前。ビルダーからの引き合いで専用パネルの製造を行うことになり、当初は 3 名体制で小さなテントの中で製造を開始。今では 60 名体制、取引先もビルダー、商社、FC、工務店など数十社に拡大。敷地 2000 坪、建屋 1000 坪の工場に移転し、1

日 8 時間ワンシフト、30 坪換算で月産 150～200 棟分の供給体制が整っている。平成 24 年度の売上高は 15 億 5000 万円で 9 割方はパネルの売上げとなっている。

断熱性能の強化で需要増

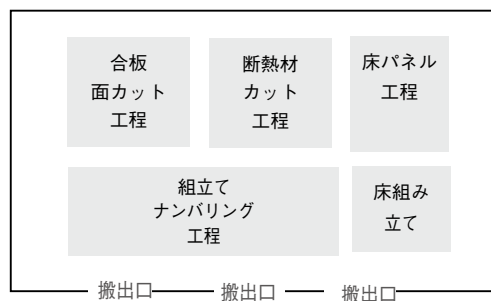
同社のパネルの特徴は、在来工法で高品質化を図ることにある。

断熱材としては、注文に応じて大手メーカー各社の断熱材を取り

DATA

工場名	兼希工業(株) パネル事業部
所在地	群馬県伊勢崎市三室町 6201-11
敷地面積	約 2,000 坪
建屋面積	約 1,000 坪
従業員	63 名（うちパネル工場 57 名）
生産規模	月産 150～200 棟（30 坪換算）
年商	15 億円（平成 24 年度）

MAP





パネル工場（建屋面積約 1,000 坪）



出荷されるパネル

揃えている。面材は、合板やパーティクルボード、枠材はLVLなど様々である。

最近ではポリスチレンフォームの他に、グラスウールタイプを売り出しはじめた。まだ全体の1割ほどであるが、床用パネルでグラスウールを使う比率が高まっている。

この他、お客さんからのヒアリングをもとに現場の問題点をまとめあげて、形、材料、部位、防火・構造認定の仕様まで適合させた最適なパネルを製造している。

営業上の特徴としては、「パネル

で安くなる」という宣伝はしていないという。パネルで安くなるかという質問について細測専務は次のように語った。

「パネルでどれだけ安くなるかということをつらつら聞かれるので考える機会が多いのですが、材料費が安くなるということはないです。むしろ工期の短縮で出てくる人的な余裕を、どこに向けるかということがポイントだと思います」

パネル化で材料のコストが下がるのではなく、パネル化によって大工不足の解消や性能の向上や安定化と

いったメリットが生まれてくる。そのメリットをどのように活かせるかがパネル活用のポイントである。

真壁パネルでC値1・0可能

気密測定技術者の資格を持つ細測専務によると、パネルを使った結果、省エネ基準の仕様規定をクリアできることは確かであるが、気密測定でどのような値が出るかは物件によって異なるので保証できない。ダクト工事の処理や壁と屋根の取り合い部



パネル工場内部
断熱材とボードが山積み